

道商連が網走管内 建設業トップセミナー

入札制度の問題点は

【網走】北海道商工会連合会（有岡惇二会長）は25日、網走建設会館で網走管内建設業トップセミナーを開いた。網走建設業協会の後援で、会員企業から66人が参加。

「今、トップは何を決断すべきか」をテーマに入札制度の問題点や工事現場の管理について学んだ。

セミナーに先立ち、管

野伸一網走建協会長は、世界的な不況下で建協会員にも影響があるとし、「管外の業者が網走にも攻め寄せ、ダンピング問題など手をこまねいていられない状況だ」と述べ、講演会の成果を今後に結び付けるよう求めた。

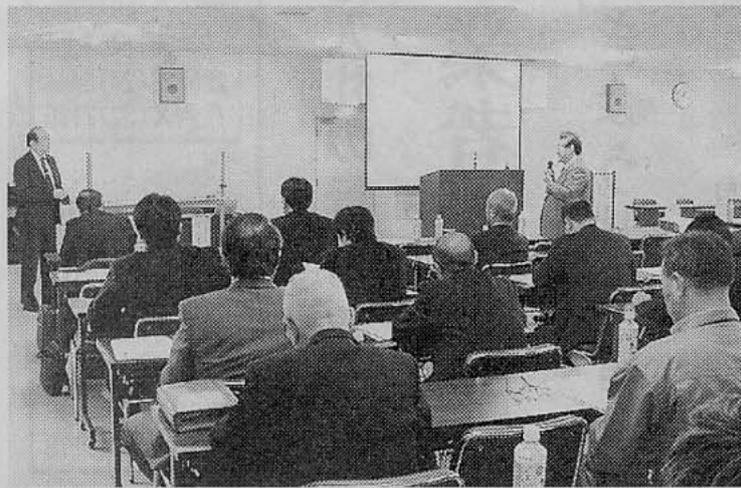
道商工会連合会の藤原貴幸専務理事は、建設業が地域経済をけん引していることから、「地域経

済の落ち込みを防ぐため、建設業に元気になってほしい」と述べた。

セミナー

は、会員が講師の阿座上洋吉地域経済研究所理事長に質問する形式で実施。阿座上氏は、注文生産市場の建設業

質問・回答形式で進められたセミナー



は、最終的な品質が未確定なため過度な競争に耐えられないとし、一般競争入札よりも、技術力が高く、高品質な完成品を供給できる企業による指名競争入札が適切と指摘した。

利益を求めるためには「現場での工程管理を工夫するほかない」とし、総合評価技術提案の際には「入札を担当する営業と現場代理人との連携が不可欠で、経営者の決断による改革が必要」と説いた。